

陰  
知  
通  
解  
志

35

繪本通寶志卷之二目錄

舞樂之圖

平舞

藤利吉

樂筥

迎蔭頻

散利

右靴之図

小蝶

振鬘

安麻

還城示

鞠精神之像

柳小鞠之圖

競馬之圖

三品

色畫に精神ある事

三品

熊治之湯

宮殿之園

細工の妙ある事

式三番

箱

千歳

三番

女侍

狂言

業原舞

舞人の圖

舞人 舞衣 舞履 舞扇 舞杖

舞衣の形は 舞履は 舞扇は 舞杖は

舞衣の形は 舞履は 舞扇は 舞杖は

舞衣の形は 舞履は 舞扇は 舞杖は



遊あそび陵りやう頻ひん  
四よ人にん

絶たぎりの金かね皮かわ



小こ蝶てつ  
四よ人にん

抱かかりあごご金かね皮かわ  
小こ袖そで白しろ  
おみみああき  
雲うんん  
るるりり金かね



右  
利古  
氏



冠  
老  
松  
平  
前  
振

安  
麻  
元  
左



集  
金  
集  
在  
緒  
二

# 散手

左

面朱  
面帽子同左  
多甲右右入敷  
金づくし金銀  
なり白  
うしろせ  
くわてこの袍  
さしわさる色  
金お波  
いづれも  
りま白

# 貴徳

右

鳥甲龍  
面朱  
鳥籠袋  
鳥籠袋  
鳥籠袋



# 抜頭

面朱  
髪  
むら金  
中  
地級  
い  
ある  
ある

いづれも  
なり



還城樂丸



面朱  
般中白  
白朱  
面朱  
金波中白

兼錄



打とる朱金波  
中白  
金波中白  
三川つう  
赤先朱白  
石帯金  
抱朱白の級  
六葉白  
白んせう  
地金波  
絹同新  
奴橋朱生  
徳靴白  
蛇金



高橋



楽頭 <sup>がくづ</sup>  
 他 <sup>た</sup> 朱 <sup>しゆ</sup>  
 彼 <sup>か</sup> 文 <sup>ぶん</sup> 文 <sup>ぶん</sup>  
 地 <sup>ち</sup> 紋 <sup>もん</sup>  
 夜 <sup>や</sup> 系 <sup>けい</sup>

楽 <sup>がく</sup>  
 之 <sup>の</sup>  
 楽 <sup>がく</sup>  
 屋 <sup>や</sup>  
 白 <sup>しろ</sup>

寶 <sup>たから</sup>  
 鏡 <sup>かがみ</sup>  
 後 <sup>のち</sup>  
 續 <sup>つづ</sup>



左散之湯

水網多金のあまのてまゝの火のあまのてまゝの敷のあまのてまゝの  
抱面ふ巴と書てを神とあつた巴のあまのてまゝの川のあまのてまゝの



巴の水と表と多の 閨白水東南二流  
曲折三廻ノ巴字ノ如シト云

柳小鞠と書事 著聞集より白竹伝大納言成道御鞠と云れたまふ

まごえんのあまのてまゝの千日鞠のあまのてまゝの  
日乃鞠のあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
ん人あまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの

左 菱安林 面赤 朱仕立

正 春揚花 面緑 ロクセウ

右 秋園 面白 胡粉

鞠精神之像



面人ノゴトク  
テアシサル  
手足猿ノゴトクト有  
後世神ニ祭ル故ニ  
三神ヲ合體トシ冠衣ノ像ニ畫者欵

かりし髪と押あがけしあまの  
と云はれし金及の文字あり  
跡のさるあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
り候と云はれしあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
はまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
そいつのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
候なり我々付そいつのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
まのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
樹がれ候しがあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
さるあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
かまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
とかり候かまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの  
る事といはれしあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝのあまのてまゝの



競馬之圖



長谷川

長谷川





志之精神服中はあり

しり中納言... 志之精神服中はあり... 志之精神服中はあり... 志之精神服中はあり...



志之精神服中はあり... 志之精神服中はあり... 志之精神服中はあり... 志之精神服中はあり...



びりーの神の神書に名書れやうだともあつた中この比の神書はあつた物と  
 あうぜんまなりわ泉式部はうしとて本朝の神書にまうてなれたと何の  
 やうとありあれど彼後るふ白ひて和字と一音係りあつたといふ  
 書一やうだうおはあびーと云ふ

ありてうしとてに水遊のやうな  
 しましやれとて白ひとて



飛鳥部の常則が家院の  
 ちうじに雛の形とあつた  
 一ありありとれ舞の鶏  
 来りて踏さり  
 夕ねとなり





無錫女後編一

十三

無錫女後編一

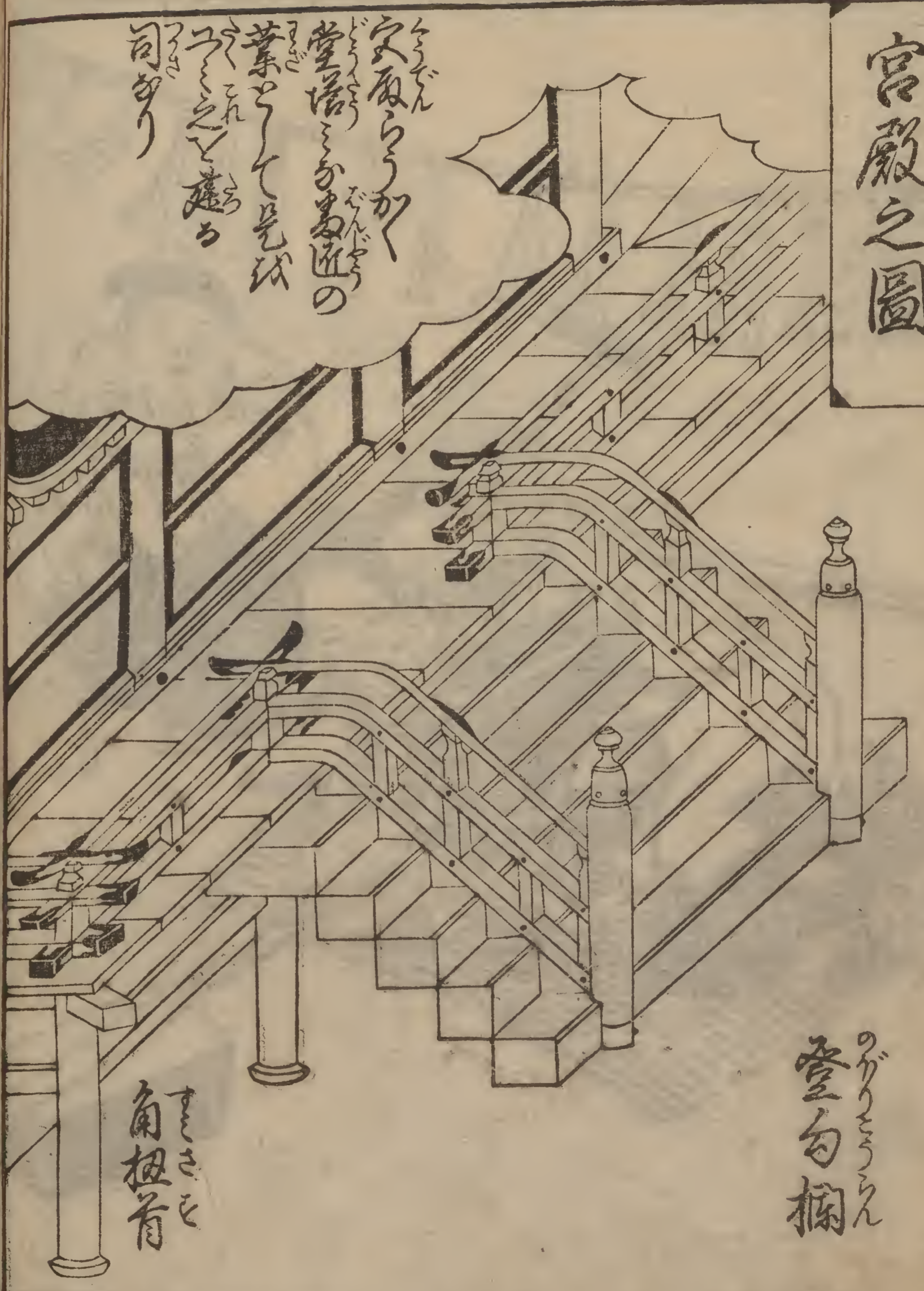
無錫女後編一

十三



宮殿之圖

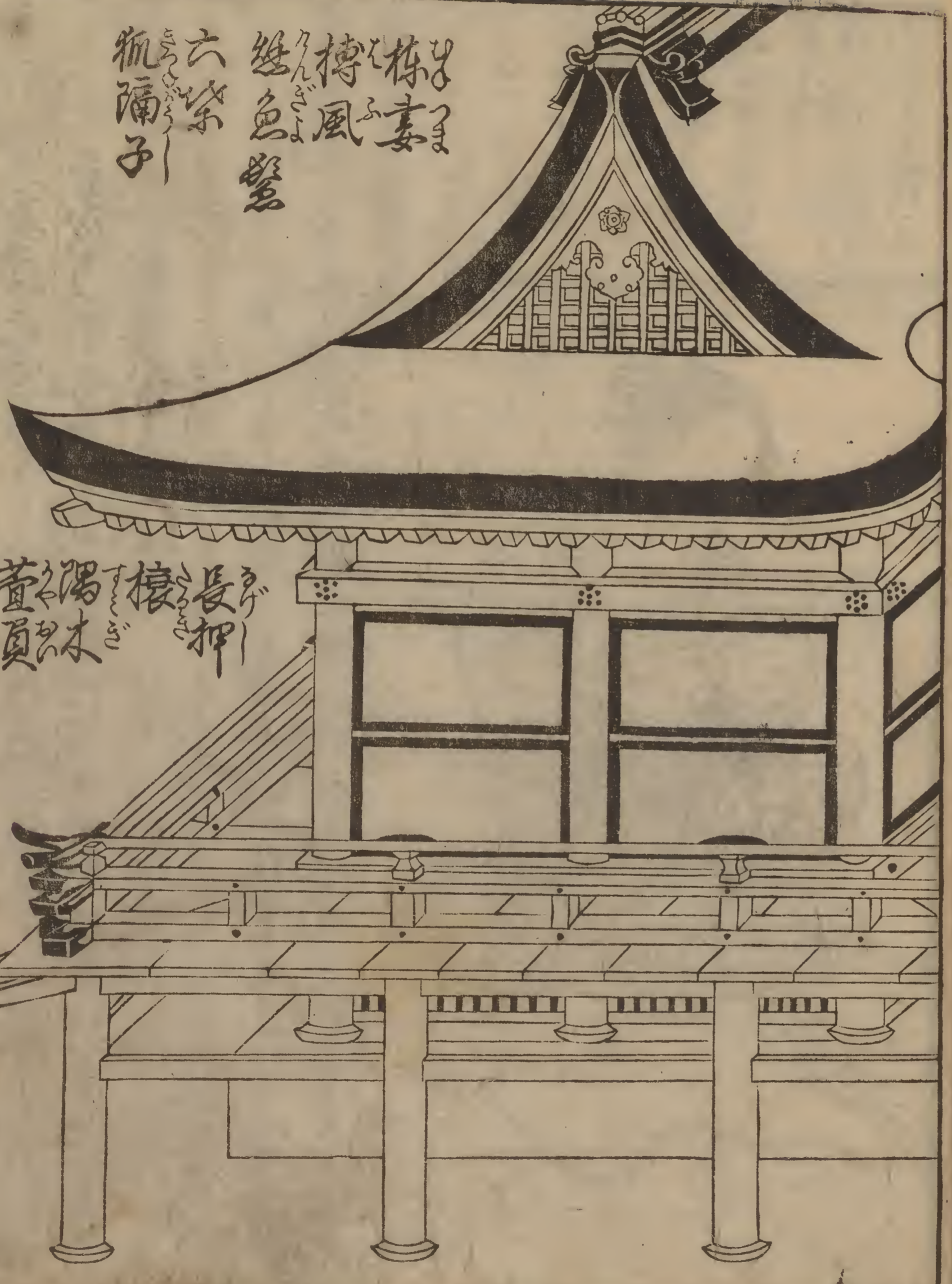
文取らうかく  
堂塔まかむの  
葉やて先以  
つくと建ち  
司なり



のがらうら  
登勾欄

すま  
角柱首

棟妻  
搏風  
懸色  
六條  
狐隔子



長  
檼  
陽  
萱  
員  
押  
本

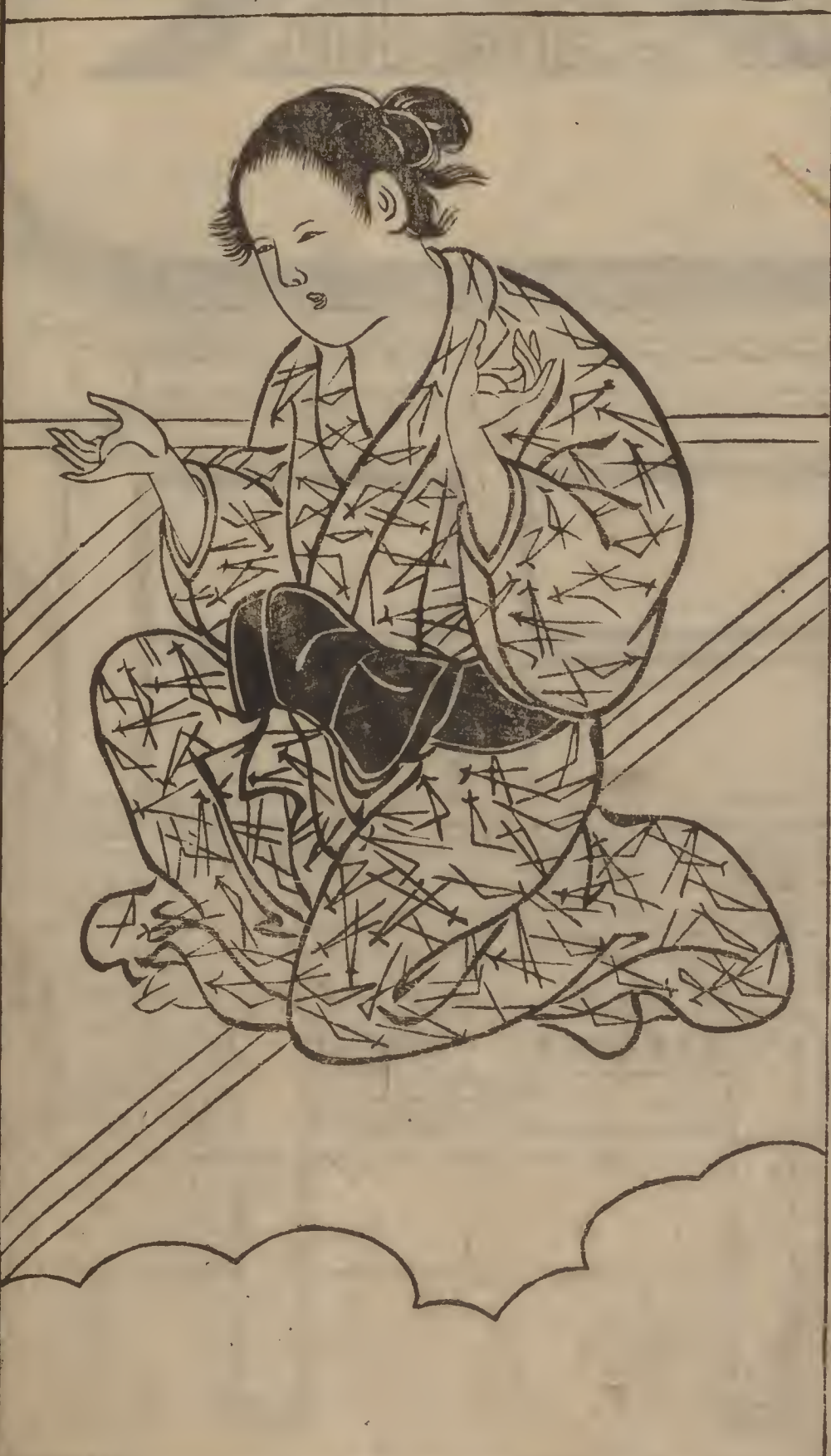


金瓶梅詞話卷之四

金瓶梅詞話卷之四

金瓶梅詞話卷之四

金瓶梅詞話卷之四



金瓶梅詞話卷之四



せんざい  
千歳



せんざい  
千歳

おとら  
翁



せんざい  
千歳



足袋をはきかた

三つ目三思射

ひさねらんせう  
うらごえんりやうごえん

かぶさか子骨若しやう金入  
冷派ふさ朱

女舞妓  
舞妓

舞妓の白の羽子に白の早もて  
余の幸くそお早計にて音ゆよ白梅子と云





おろろん  
ねん



あつひのまみ  
葉本舞女  
あぶさ



又大小の舞ま  
あつひのまみ  
あぶさ  
葉本舞女  
あぶさ



